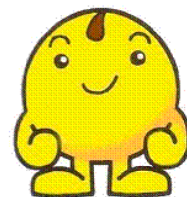


岩船大豆情報 No.2

平成 30年 5月 28日
村上農業普及指導センター

高品質・安定生産に向け、中耕・培土や排水対策、
雑草対策を徹底しましょう。



これからの管理のポイント

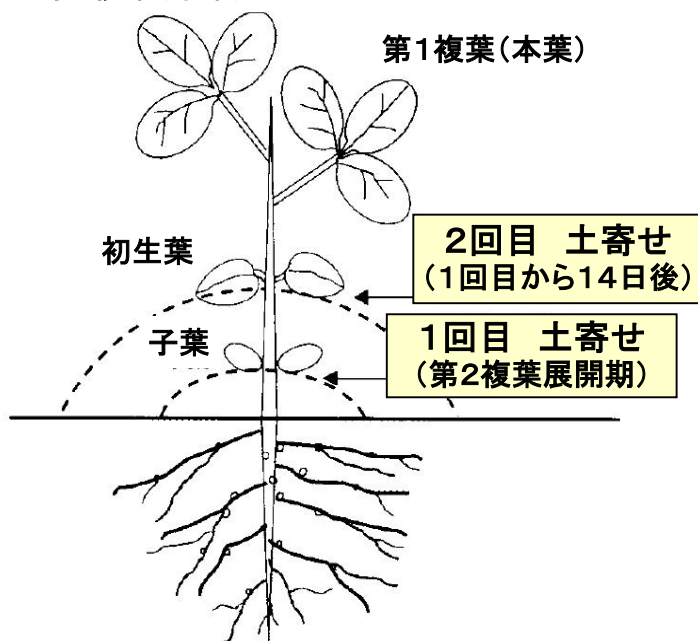
(1) 中耕・培土の目安

- 1回目 → 播種後3週間頃。第2複葉展開期頃に子葉節まで。
- 2回目 → 1回目作業から2週間後に初生葉節まで。

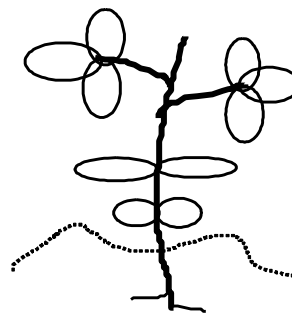
※2回目の培土は、開花期前(7月20日頃)までに終わるようにしましょう。

- ・開花期以降は、根の切断により生育へのダメージが大きく生育抑制や落花・落莢を招く恐れがあります。
- ・畝立て播種を行っているほ場でも、中耕による除草効果が期待できるため必ず行いましょう。
- ・やむを得ず1回で終了する場合は、初生葉節の株元まで培土し、雑草を埋没させましょう。

第2複葉(本葉)



【土寄せが不十分な例】



株元に土が寄らず、隙間ができると



- ◆ 株間雑草の取りこぼし
- ◆ 排水対策不十分・湿害の恐れ
- ◆ 不定根の発生量減少

中耕・培土は、雑草の発生が早い・多い場合や、週間天気予報等で長期間
降雨が予想される場合は、可能な限り前倒しで作業を行ってください。

(2) 排水溝等の点検

- 地表残留水は、1日以内に排水されることが湿害防止の重点ポイントです。事前に周囲明渠や排水溝等点検を行い、まとまった降雨があった場合は速やかに排水が行われるようにしましょう。

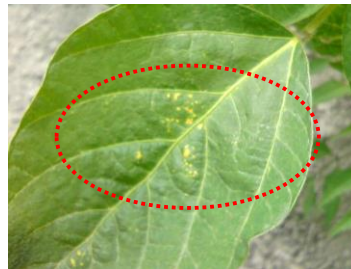
(3) 除草剤散布による雑草対策

- 大豆生育期の雑草対策は、「中耕・培土」の徹底が基本です。
- 茎葉処理除草剤は、中耕・培土で残った雑草対策の補助的手段として使用しましょう。
- 降雨が続く等、培土作業が遅れ、雑草多発が懸念される場合は、除草剤を適正使用し、雑草防除を行いましょ。
- ほ場に発生している草の種類(イネ科雑草、広葉雑草)に応じて最適な薬剤を選定し、遅れず散布しましょう。
- 除草剤を畦間に散布する場合は、飛散防止カバーを利用し大豆に付着しないよう注意しましょう。

(4) 害虫防除

- アブラムシ類

直接の吸汁害の他に、ウイルス病(褐斑粒)を媒介します。葉の黄色い斑点等の発生に注意し、葉裏や未展開葉に多発生の傾向がみられたら速やかに防除を実施してください。



【アブラムシに吸汁された痕の症状】

- フタスジヒメハムシ

発生は年4回で、幼虫は根粒を加害し、莢数の減少や子実が小粒化し、収量が低下します。また成虫は、葉や莢を加害し、多発すると生育の悪化を引き起こします。莢への加害は、黒斑粒を発生させ、品質が低下します。種子塗沫剤を処理していれば、通常は生育初期の防除は不要です。しかし、成虫が多発生した場合は、薬剤防除が必要となります。

(参考) 収量300kg/10aに向けて今が勝負時！

- 収量300kg/10aを達成するためには、開花期前の生育量確保が重要です。

生育量の目安(5月末～6月上旬は種)
は種後50日(開花期前):主茎長32cm以上
分枝数9本/m²以上



中耕・培土、排水対策等を行う今がその勝負時！